

令和6年度 第1回さいたま市立教育研究所運営委員会会議録

1 開催日時 令和6年7月12日(金) 午前10時00分～午前11時15分

2 会場 さいたま市立教育研究所 4階 視聴覚研修室

3 出席者名

<運営委員会委員>

※敬称略

戸部 秀之(委員長) 田中 邦典

河野 秀樹 辻 美由紀

細井 博幸 八坂 和典

入澤 真理香 石川 聡

丹 能成 岸 智絵

小林 由美恵 高野 千華

伊藤 真弓

<事務局職員>

所 長 津田 顕吾

所長補佐 後藤 正憲

調査研究係長 宮脇 諒

研修係長 阿部 史朗

I C T教育推進係 片山 賢

欠席者名

<運営委員会委員>

根岸 君和

和田 牧子

4 会議の公開 公開

5 傍聴人 0人

6 内 容 (1) 令和6年度教育研究所の組織・運営方針及び事業概要について  
(2) 令和6年度各係の事業計画等について  
(3) 質疑、協議

7 問い合わせ先 さいたま市教育委員会学校教育部教育研究所  
電話 048(838)0781

8 質疑応答・協議要旨

○=委員から ・=所員から

委員長	○「「学び方」・「教え方」・「働き方」の改革に資する教師の資質・能力の育成について」を中心に協議を進めていく。どの角度からでも構わないので、質問、感想をいただきたい。
委員	○これまでの研究所としての業績の積み上げが素晴らしい。調査研究でいえば、学力向上パッケージの作成・提供や、研修ではデザイン思考研修や学生の早期育成など、取組がよりステップアップしている。SSSP の取組については、データの蓄積を教員にどのように納得させるかが課題と感じている。教員が積極的に取り組むためには将来像（教員・児童生徒に対するメリット）を示すことが重要ではないか。示していただければ、校長側からも教員に伝えていく。
委員	○事業説明を聞くと、研究所が綿密に計画を立てて事業を進めていることがよく分かった。学校を運営していく上で、研修が根幹となり、それを具現化するためにはミドルリーダーの育成が大事になると考えている。ただ、管理職だけで育成することには限界があることも痛感しており、外部機関と関わりながら育成していくことが重要と捉えている。今後は、外部機関と関わりがもてることを他校に示したり、研修主任同士で参集し、情報共有できる場を設けたりすることが大事である。
委員	○多方面で教育が日々刷新されていくのを感じている。校内研修を研究所の指導主事が伴走しながら進めることで、教職員の意欲向上につながっている。コロナ禍を経て、初任者を見ていると、技術よりも、明るさやコミュニケーション力、表現力、人間関係を形成する力といった資質の育成が必要と感じている。養成段階に研究所の研修を受講できるのもいいことであるが、大学時代に色々な経験を積んでいただきたい。タブレットの修繕期間は短縮されている。
委員長	○OS の入替について、先ほど研究所から話があったが、OS や機能といった現場からの希望があれば御意見をいただきたい。
委員	○教育データを利活用できる人材の育成が求められていると感じている。個人面談を実施する際に、スクールダッシュボードの画面を示しながら学習状況等を共有したいと考えているが、どのデータが紐付けられ、どのように見せられるのかといった活用の具体的なイメージがもてていない。SSSP の目指す姿の具体例を示していただきたい。また、教員はデータの分析や利活用に係る研修をこれまで受講することができていないため、今後の研修のあり方の検討が必要と感じている。OS の入替に伴って、これまで子どもたちが蓄積してきた学習履歴等は引き継がれるのか、心配している。
事務局	・OS が変わってもデータは引き継がれる。全部消えてしまうわけではない。
委員	○教育データを利活用できる人材を育成する上で、データを意識させていきたい。そのために、人事評価の指標として、さいたま市学習状況調査の数値を活用できれば、自クラスのデータ分析を行うなど自然と意識が高まるのではないか。CBT 化に伴って、準備段階が簡略化できるのであれば、調査実施を11月に早めることで、1月の人事評価に活用できるようになるため、数値をもとに自身の授業を振り返ったり、新たな目標設定

委員	<p>をしたりするなどにつながる。</p> <p>○様々な研修を計画・実施していただきとてもありがたく感じている。特に、チームビルディング研修においては、他校種の教員とつながりをもつことができ、大変有意義であった。産休・育休明けの教員からの不安の声が多くあるため、フォローできる手立てがあるとよいと感じている。</p>
委員長	<p>○これまで御意見をいただいた中で、自校で工夫されていることや課題等あればお話しいただきたい。</p>
委員	<p>○データ利活用については、校長自らが研修しないといけないと感じている。これまで本校では教科型の研修を進めてきたが、もはや時代にそぐわないと感じている。これまでの研修スタイルで、子どもたちに必要な力が身に付くのかという教員側からの意見を基に、今年度は教科の枠を越えたテーマ型の研修に取り組んでいる。研修主任を中心に学び方、教え方の改革していくための研修を模索しながら進めているところである。</p>
委員	<p>○リーディングDX推進校の取組を見た教員から不安や諦めの声もある。授業だけを見て評価しがちで、これまで自身が行ってきたことを比較してしまい、授業改善が進まなくなってしまう現状がある。その場だけの研修で終わりにするのではなく、少し先の未来を見据えたものを提示していただけると、様々なキャリア段階の教員も腹落ちして進めていくことができる。</p>
委員	<p>○校内に様々なキャリアの教員がいるが、情報の共有や緊急連絡等、Teamsのチャットを使った業務のやり取りが日常化してきており、業務改善につながっている。</p>
委員	<p>○将来的な話になるかもしれないが、AIを活用した企業のカスタマーセンター対応の取組が、学校現場における保護者との電話対応に活用されると業務改善につながると期待している。</p>
委員	<p>○教員の授業観や指導観を変えることについて、小学校と中学校の違いを感じており、どのように教職員に発信していくかが課題である。同時に、ツールを扱う教員のリテラシーも重要となる。ICTの活用については、小学校段階からの積み上げの重要性を実感している。使い続けることでリテラシーの向上にもつながるのではないかと。</p>
委員	<p>○教育研究所の幅広の施策に感服している。さいたま市のSSSPの取組は、全国でもトップレベルであると感じている。全国では自治体によってICT化がうまく進んでいないところもあると聞くため、さいたま市の取組をぜひ他自治体にも広めてほしい。体験に差のある子どもたちが増えてくるため、GIGAの取組を進めると同時に、体験や実物に触れる活動を大切にすることが必要である。</p>
委員	<p>○委員の示唆に富んだ意見が大変参考になった。自分が教員になった時と、言葉は変わっていても、求められていることは変わっていないと感じた。学習者主体の学びや個別最適、協働的な学びの質を高めるためにはICTの活用が必須となる。また、ICTの活用によって学習指導の充実だけではなく、子どもたちの支援の充実が図られ、子どもと向き合う時間の確保にもつながる点で、SSSPの役割を非常に大きい。各学校の学びに伴走できる指導主事を1人でも多く育成する必要性を感じた。</p>